

桜蔭俳話会 一月句会 (第三二二回)

平成二十五年一月二十七日(日)

会場・桜蔭会館

3点②遠き地の企業戦士や寒気団

明美

冬の日へ高さ競ひしビル二本

守

①一筆の大きな元氣年賀状

幸

家はし蜜柑の多くなりし見ゆ

真三

①初空や屋根なしバスの予約席

守

犬三匹綱もつれずに残り雪

秀一

やうやくの内定メール春隣

守

冬街のはるか連峰くつきりと

真三

買初めの日本地図帳島さがす

秀一

狛犬のあうんに笑みし初明かり

ツル子

2点 寒の入しつかり歩むこと始む

真三

老の春太極拳の動滑ら

ヤエ子

静もりて雪に消へ行く救急車

ツル子

折目たつ着物匂へるお弾初め

幸

降る雪や本の匂ひと珈琲と

秀一

地下街に女性着多く春近し

真三

着膨れてテレビの前の箱根越へ

ツル子

枯芝や雑草と連れ立つ小さき庭

溪水

立話何時終るやら日脚伸ぶ

溪水

年移り画面一変除夜の鐘

ツル子

手を繋ぐ父子相似る残り雪

秀一

初富士やきらきらきらと光る海

ヤエ子

嵩うすき葉物積みみろし初荷かな

明美

チェーン音のバス到着す雪の街

友子

挨拶の言葉覚えし年始の児

友子

探梅や修道院の壁白し

守

(不在投句 古野明美、瀬戸溪水)

制服は和服と決めしか成人式

溪水

1点①初雪に警報の出る盛り場よ

溪水

①摘みたてのなづなの粥の噴き始む

友子

①初日影社の屋根に大樹這ふ

ツル子

婚約の報告に沸く新年会

友子

こたつ嫌ひ廊下の日向探す猫

幸

大寒や蘇鉄に布の巻かれをり

ヤエ子

観音のうすき闇より寒牡丹

守

神木の天辺に啼く初鴉

友子

川澄みてゆるり流れや冬の鷺

ヤエ子

四つの眼一つのケータイ初電車

秀一

肩上げせし母の手急かすお元日

幸

新雪をシヤキシヤキと音出かけゆく

真三

異人墓地抜ける坂道虎落笛

幸

スーパ―遠し自販機の寒卵

明美

※

年ごとに退屈さ増す去年今年

溪水

ジョギングのペース変らじ去年今年

ヤエ子

能面に刷かれし胡粉冴ゆるなり

明美

牡蠣小屋へ猫のあつまるベイサイド

明美